日本共産党
名古屋市議団
市政ニュース
2017年9月14日
No.257
http://www.n-jcp.jp
名古屋市中区三の丸三丁目１－１
電話052(972)2071　FAX052(972)4190
発行・日本共産党名古屋市会議員団

議案外質問(9月14日）藤井ひろき議員

迷彩が施された市庁舎の外壁、 石の鐘楼、松脂採取跡....
戦争遺跡を保存活用し、次世代に「悲惨さ」継承を

藤井ひろき議員は14日の本会議質問で、戦争の悲惨さを次世代に伝えるために、市内各地にのこる戦争遺跡の保存・活用を求めました。

身近にある戦争遺跡

戦争遺跡とは戦争の痕跡、戦争のために造られた施設や戦争で被害を受けた建物などで、戦時中の様子を当時のまま今に伝える建築物なども含まれます。藤井議員は議場で、市庁舎時計塔裏外壁の迷彩を施した跡や、鐘楼に吊り下げられている石製の鐘（東区・円明寺）、市庁舎北側に植えられている、今なお松脂を採取した跡がのこる木などの写真パネルを紹介。「戦争の悲惨さを後世に伝える、歴史の生きた教材になる」と力説し、市の把握状況について質問しました。

市庁舎全体に迷彩色を施した当時の写真(左)と、現在も跡のこる外壁部分(右)

答弁にたった教育長は、現地調査等で作成したガイドブック「学芸員と歩く　愛知・名古屋の戦争遺跡」（市教委発行）には１０３件を掲載していると説明。そのうえで、「戦争遺跡を実際に訪れ、見たり触れたりすることで戦争の悲惨さや平和について考えていただくきっかけになるのではないかと考える」と藤井議員に共感を示しました。

藤井議員は「（今後も）ぜひ市内の戦争遺跡の把握に努め、調査研究を続けていただいたい」と要望しました。

藤井議員は「戦争遺跡なども含めて、戦争の悲惨さを継承していくことについて、どのように考えているのか」と質問。

石の鐘(東区･円明寺)

総務局長は答弁で、愛知県と共同で開設している「愛知・名古屋　戦争に関する資料館」（中区・丸の内）の取り組みを紹介。「教育委員会と連携しながら、引き続き戦争体験の継承に努めたい」と述べました。

藤井議員は、同資料館の人員体制（学芸員・事務職各1人）に触れ、「約1万1千点の収集品の保存、研究、展示に加え、戦争遺跡を周知、活用した展示となると、学芸員の増員は必要不可欠だ」と改善を求めました。

松脂採取跡がのこる木
（右。市庁舎北側）

「第３子以降」なら２億円で実現可能
小学校給食費、無償化に踏み出せ

藤井議員は、学校給食費を全額補助している自治体が全国６０市町村に広がり、４月の名古屋市長選でも期待する声が多く寄せられたと主張。「小学校生活6年間の給食費は一人25万800円。給食費以外にもドリルや笛、絵の具に習字セット、体操服など小学生を持つ保護者の負担は本当に大変だ」と述べ、名古屋も無償化に踏み出すよう求めました。

しかし教育長は「保護者負担の軽減という目的のほか、まちに子育て世代を呼び込み、過疎化を食い止める目的で実施しているところが多い」「本市は費用が課題」などと答弁しました。

子育て世代を呼び込める

藤井議員は「少子化で市立高校（若宮商業高校）を廃止する話が持ち上がっている。だったら給食費を無償化して、子育て世代を呼び込めば、廃止せずにすむのではないか」と指摘。小学校給食無償化に必要な予算は約40億円であり、第3子以降の無償化なら約2億円で実現できると述べ、「義務教育は無償という憲法の観点からも、子育て応援の観点からも、政令指定都市で最初に、給食費無償化に取り組むべきだ」と強く求めました。